

主体的に学習に取り組む態度を評価する単元構想 リフレクションシート (商業科「プログラミング」)

単元名： 3年生 第3章 第2節 配列の利用 「配列による並べかえ」(全5時間)

単元構想のリフレクション (研究仮説と手だての有効性の検証)	
単元を通じた構想の振り返り (仮説の検証)	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に生徒を動かす具現化することで、並べかえでの退避場所の重要性がイメージしやすくなった。しかし少数ではあるが、目で見たイメージが強すぎてアルゴリズムとリンクすることができず戸惑う生徒もいた。 ・ロイロノートを使うことで、普段積極的に発言できない生徒も自分の意見を表現しやすくなった。またクラス全員の意見や考え方を知ることによって、自分の考えをブラッシュアップすることができた。 ・ループリックを活用した自己評価に取り組んでみたが、生徒への説明や取り組ませ方がうまくいかず、評価のためだけの時間だけになってしまった。
主体的な学びを評価する手だての有効性の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠をもって考えるよう助言し、それを他者に伝えることで生徒同士理解が深まり、自分の考えに自信がもて、前向きに取り組むようになった。 ・他科目や別の単元でも教科者の文字だけで考えるのではなく、自分たちで人や物に置き換えたり、角度を変えようとしたりするきっかけができた。
対話的な学びを評価する手だての有効性の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートを使い、他者の意見に触れることで考え方の幅を広げることができた。しかし、タブレット端末を介して行うため、生徒同士対面での意見交換や発言、話し合いは少なく感じた。 ・グループ内なので全体で発表するより活発な意見交換がされており、前向きに取り組んでいる生徒が多かった。ただ具体的な評価につなげるには難しさを感じた。
深い学びを評価する手だての有効性の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に説明させたり、プログラムを実習させたりすることで、教科書で学んでいた内容がパソコン内でどんな動きをするのか実際に確認することができた。 ・ロイロノート、ループリック、実習など今までの授業では取り入れていなかった内容であったため、生徒も毎授業新鮮な気持ちで学習できていた。さらに学習意欲も高く活動に取り組んでいた。

抽出生徒の変容		
生徒	実践前の様子	単元終了時の様子
A	<ul style="list-style-type: none"> ・向上心を持ち、積極的に授業に集中することができ、アルゴリズムに対しても粘り強く取り組むことができる。しかし、直感的に考えてしまい、論理的に考えることを苦手としているため、いろいろな角度からアプローチすることができる力を身に付けさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒントやきっかけを与えることで少しずつではあるが論理的に考えるようになっていった。 ・まだ知識が定着していない部分があるので、今後も助言をしながら取り組ませていきたい。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミングに対して苦手意識が強く、授業にも積極的に参加することができていなかった。自分の考えに自信がもてず他人に頼り、黒板の板書を写すだけになってしまっていたので、主体的に授業に取り組ませたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めは自信がもてず、他人と協働して論理的な考え方を導き出すことが多かったが、次第に自分の考えを表現できるようになっていった。 ・前向きに取り組む姿勢は身に付いたが、自力で問題解決に至るまでの力は付けられなかった。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・授業には取り組んではいるが、学習に対する意識が低く、集中して座学に取り組むことを苦手としている。しかしグループワーク等には積極的に参加しているので、その力を普段の授業でも生かせるように取り組ませたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手な単元のグループワークでも積極的に自分の考え方を他者に伝え、アドバイスをすることができていた。 ・自分の考え方に固執してしまい、自分の意見を通そうとする場面が見られた。

実践を通しての課題
<ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムについて考えさせる場面が多かったため、論理的思考が苦手な生徒の多い中で授業を展開するのに時間がかかってしまった。 ・グループワークでループリックを用いたことで、基準が明確になり評価しやすかった。 ・ケーススタディやグループワーク、実習等も取り入れながら、もう少しアプローチの仕方を工夫すればよかった。